

# 平成30年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加南高等学校)

目指す学校像	困難に挑戦する強い心と豊かな人間性を育み、社会に貢献する人材を育成する。
--------	--------------------------------------

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実践と知識・技能の習得を、高い次元で融合する学習指導を研究し構築する。 2 生徒ひとり一人の特性を多角的な観点から把握し、自主性を促しつつ成長への適切な指導を組織的に行う。 3 多様な進路実現に向けきめ細かな指導を継続すると共に、大学入試改革に対応できる進路指導を確立する。 4 グローバル人材育成事業やオリ・パラ教育をとおして、英語・グローバル教育の一層の充実を図る。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	5名

学校自己評価						
年度目標				年度評価(平成31年2月1日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○本校生徒ひとり一人の学力向上に資する学習活動を展開したい。ALの手法を取入れた授業研究、主体的・対話的で深い学びのレベルアップが急がれる。その実現には、授業の前後も含めた授業構成の研究が求められる。	○優れた学力の育成と、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を実践する。	①授業や部活動、委員会活動等について、教員の目標設定に、主体的・対話的手法を含める。 ②朝の学習、スタディー・サプリ、家庭学習を活用し、生徒の知識・技能の習得を補完・充実させる。 ③全学年で探究的学習を導入し、主体的な課題解決能力を養う。	①授業アンケートで理解度等に関する回答割合(肯定が80%以上) ②実施の可否 ③実施の可否とプレゼンテーション	①授業アンケートで授業の理解度、対話に係る回答割合(肯定は74%) ②朝学習、スタディー・サプリを活用し知識・技能の習得を補完した。(全学年) ③探究的学習を展開し発表した。(全学年のべ15回)	B
2	○本校は地域に根差した高等学校であり、多様な進路希望と広範囲な学力分布が特徴的である。生徒は素直で落ち着いており、地域からの評判も良いが、生徒ひとり一人の自主性を促し成長させるには、その特性を多角的に捉える必要がある。	○日々の活動において常に高い意識を持ち、挑戦する意欲や自主性を向上させる。	①学校行事、部活動、ボランティア活動を活性化させ、企画等立案や情報発信させる。 ②生徒に係る情報を学年・分掌・教科等で共有し、組織的に生徒を育成する仕組みを作る。 ③eポートフォリオ等を参考に生徒の活動実績等を含めた多角的評価システムを構築する。	①ボランティア活動地域の行事等への参加(年間10回以上) ②実施の可否 ③実施の可否	①地域行事参加や異校種授業補助、国際語学ボランティアを行った。(11回予定比110%) ②生徒情報を横断的に、組織的に共有する仕組みを作り、連絡体制を整えた。 ③生徒の活動実績等を記録する企業系ポートフォリオシステムを1学年から導入した。	A
3	○3年間を見越した進路指導を整備し、安定して進路実績を向上させる組織体制を確立する。入学定員の厳格化が進む大学をはじめ、短期大学や専門学校、就職等、それぞれの進路先に向け十分な実力を養う指導を行う。保守的傾向が見られる生徒については、キャリア意識を一層向上させなければならない。	○生徒ひとり一人の将来を見据え、体系的な進路指導を展開する。	①長期休業中の進学補習を体系化し、5教科に対応した入試対策講習とする他、学習スペース、関係教材の整備を進める。 ②県外先進校視察を実施し、他校の記述式問題実践を全教員で共有し、指導法を確立する。 ③キャリア意識に係る講演会や分野別ガイダンス等により進路に対する意識を高める。	①②③ ・一般受験者数(大学希望者の60%) ・中堅校合格者数(のべ60名) ①大学入試に向けた対策講習の実施 ②県外先進校4校視察 ③実施の可否	①夏季休業中に5教科に対応した大学入試対策講習を展開し(全学年のべ139講座)入試問題ツールを整備した。 ①先進校訪問5回、研修会3回、授業研究協議2期2回を行い、指導法を確立した。 ③男女共同参画・進路意識向上に係る講演会を実施(12月)し生徒の意識を高めた。	A
4	○本校の特色である外国語科やグローバル教育の強みを前面に打ち出し、より生徒の意識向上と地域への浸透を図る。英語の4技能育成と英語使用率の増加について、その対応は急務である。	・国際社会を見通したグローバル教育、英語学習に係る事業を展開し、英語使用を日常化させる。	①英語の日や留学生の日等の本校独自の語学行事を検証・改善し、オリ・パラに向けた語学ボランティアを計画・実践する。 ②海外研修を充実させつつ、大学・研究機関等と連携し語学に対する意識を一層高める。 ③英語検定に係る語学指導ノウハウを確立し、生徒の意識を向上させ、合格者増を図る。	①旧行事の統合・醸成と新規行事の計画 ②実施の可否 ③参加研修等、及び合格者数(準2級以上100名)	①2020年オリパラに向け、学年全体で英語による語学ボランティア・プログラムを実施(6月、11月、1月)した。 ②夏季に14日間と9日間の海外研修を行う他、高大連携事業を実施した。(1月) ③1学年について全員受検とした。全学年合格者数(2級9名、準2級57名)	B

学校関係者評価	
実施日	平成31年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○草加南高等学校は素晴らしい実践をしていて、生徒も熱心に積極的に各活動に参加しているが、探究的学習については、先生が準備をする時間の確保が難しいのではないかとと思う。また、主体的・対話的で深い学びの実践について、すべての生徒を対象に担当者が変わっても同じ手法と内容の授業を望む。	
○近隣小学校との交流ボランティアで、高校生が英語を教えるのはとても良い取組で、小学生にとっても嬉しく楽しいことだろう。その他のボランティアについては、限られた生徒ばかりでなく、全生徒が自分の得意なことを活かして、ボランティア活動に参加できると良い。eポートフォリオを活用し、個性を潰さず自己を高めて欲しい。	
○長期休業中に大学入試対策講座を開講してもらえるのは、とてもありがたい。スタディーサプリの活用も相まって理解度が高まる。授業については、内容の他、質問しやすい環境を整えると良い。また、大学入試では、一般入試で定員が絞られているので、推薦入試が増えているが、大学選びには、大学名ばかりでなく、何に取り組むためにに重きを置いた指導が求められる。	
○オリパラ教育プリグラム等を通して、変化に対応できる、自分で考えることの出来る生徒の育成が大切である。ボランティアの対象となっている人を思いやり、物事を俯瞰的に見る力を育成してもらいたい。また、今年度から英語検定を1学年全員受検とし、検定対策も行ったことで、総受検者と準2級合格者が増加したことは素晴らしい。2級合格への対応も望まれる。	